

学生参加型の授業づくりー基本的な考え方・方法と実践例ー

杉田由仁* 流石ゆり子* 小林美雪* 須田由紀* 山本奈央* 立石ゆか**

(山梨県立大学看護学部* 前山梨県立大学看護学部**)

1. はじめに

看護学部では、学部 FD 委員会を中心とした教育の質向上への取り組みにより、平成 23 年度前期授業評価において、全 18 評価項目の内 17 項目について 4 ポイント以上の評定値平均を達成することができた。しかし、「No.11 学生が発言しやすい雰囲気をつくり、参加をうまく促していた」という『学生参加型授業づくり』に関する質問項目については、初めて 4 点台(4.00)に到達したが、全学平均 4.02 を下回る状況である。そこで、看護学部教員が担当授業における学生の参加状況について内省し、学生参加型の授業づくりについて検討を行うための基礎資料として、当該評価項目において学生から高評価を受けた科目担当者に授業実践例の提供を依頼して「学生参加型授業の基本的考え方と方法」について分析し、その結果について報告を行うことにした。

2. 目的

『学生参加型授業づくり』に関する質問項目において学生から高評価を受けた科目担当者の授業実践例について「授業の基本的考え方とその方法」について分析を行い、学生の主体的な授業参加を促進する授業づくりのポイントについて検討を行う。

3. 分析方法

今回の分析対象は、平成 22 年度後期および 23 年度前期に看護学部教員が担当した看護学部課程科目の内「No.11 学生が発言しやすい雰囲気をつくり、参加をうまく促していた」の評価項目において高評価(概ね 4.3 ポイント以上)を受けた科目の担当者から提供のあった 12 科目(表 1)の授業実践例である。

表 1 分析対象科目一覧

実践例提供者名	担当科目名	学年/区分	履修者数
A 教授・B 助教	人間の遺伝学	2 年/必修	103
C 教授	在宅看護概論	2 年/必修	96
D 講師・E 助教・F 助教	実践基礎看護技術Ⅲ	2 年/必修	98
G 教授	治療学各論 I	2 年/必修	98
H 准教授	看護英語	2・3 年/選択	13
I 講師	母性看護学Ⅱ	3 年/必修	93
J 講師・F 助教	在宅看護活動論	3 年/必修	94
K 講師	看護倫理学	3 年/必修	95
L 准教授	新生児医療と看護	4 年/選択	7
M 教授・N 助教	学校保健論	4 年/選択	13
O 講師	保健福祉行政学	4 年/必修	95
M 教授・O 講師	地域保健活動論Ⅱ	4 年/必修	100

これらの科目を、まず「授業における教師と学生、学生間の相互作用の型 (Lindgren, 1956)」を分析指標として、教師から学生への一方通行による知識伝達が行われる「教師主導型授業」と二方通行あるいは三方通行の「相互コミュニケーション」が許される「学生参加型授業」に類別する。次に、「学生参加型授業」に分類された科目について 1) 授業の主体、2) 協同学習形態、3) 学習活動の自由度、4) 学生主体の活動に対する事前指導・支援を視点として、参加型授業の特徴である相互コミュニケーションの分析を行う。さらに、授業方法の分析については、各実践例の「授業デザイン」に着目し、複数回授業をスパンとして展開する「マクロ的デザイン科目」と単一授業の 90 分間を展開する「ミクロ的デザイン科目」に大別し、分類された科目群ごとに「導入(部)」「展開(部)」「まとめ」の各段階における授業方法を一覧表化して、共通項目を抽出し、各タイプにおける授業展開パターンを抽出する。

4. 分析結果：「学生参加型授業」の基本的考え方・方法と実践例

4.1 「学生参加型授業」の基本的考え方

12 科目はいずれも「学生参加型授業」に類別され、相互コミュニケーションの特徴から下記の 3 類型(タイプ)に分類することができるという結果になった(表 2)。

表 2 4 視点に基づく「学生参加型授業」の分類

授業の類型	タイプ A	タイプ B	タイプ C
	主導型	誘導型	促進型
相互コミュニケーション	完全な三方通行	制限された三方通行	二方通行の並列
授業の主体	← 学生中心 ----- 教師中心 →		
協同学習形態	使用する	使用することが多い	必ずしも使用しない
参加の自由度	← 限定されない ----- 限定される →		
学生主体の活動に対する事前指導・支援			
実践例	地域保健活動論Ⅱ* 看護倫理学* 学校保健論*	在宅看護概論** 在宅看護活動論* 実践基礎看護技術Ⅲ*	治療学各論Ⅰ** 保健福祉行政学** 母性看護学Ⅱ** 新生児医療と看護** 人間の遺伝学** 看護英語**

(注) 「実践例」の*は「マクロ的デザイン科目」、**は「ミクロ的デザイン科目」を表す

4.2 「学生参加型授業」の方法

授業方法については、実践事例を「マクロ的デザイン科目」と「ミクロ的デザイン科目」に大別し、「導入(部)」「展開(部)」「まとめ」の各段階における授業方法を一覧表化して、その共通項目の抽出を行った。その結果に基づき、学生の主体的な授業参加を促進する授業づくりのポイントについて検討を行ったところ、教師と学生、学生間の二方通行あるいは三方通行の相互コミュニケーションのある授業展開と、「マクロ的デザイン科目」、「ミクロ的デザイン科目」に合った展開パターンの活用が重要ポイントであることがわかった。